

多発性骨髄腫

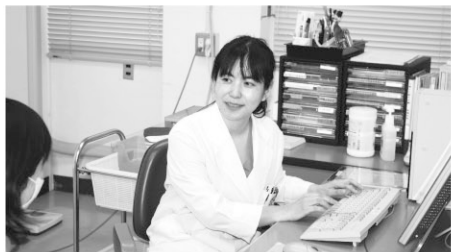


徳島大学病院
血液内科助教

たけうち きょうこ
竹内恭子氏

多発性骨髄腫
は、異常な免疫

グロブリン（M蛋白）を産生する形質細胞（血液の細胞のひとつ）が、骨髄（骨の中の血液を造るところ）の中で増加する血液のがんです。高齢者に多く発症し、人口の高齢化とともに発症頻度が増えています。骨がもろくなり、骨痛や背骨の圧迫骨折などを起こしやすく、また、貧血や腎障害も引き起こされます。初発症状としては腰痛などの骨の痛みが多くみられますが、検診などの際に高蛋白血症や貧血で発見される場合もあります。骨痛や貧血があれば骨髄腫も疑う必要がありますので、かかりつけの先生にご相談ください。



 徳島大学病院がん診療連携センター
お問い合わせ がん診療連携センター：Tel.088-633-7312

徳島がん対策センター
お問い合わせ 相談窓口：Tel.088-633-9438